

添付資料



For a better tomorrow for all  
Japan International Cooperation Agency

6th September 2006

**Dr. Augusto Rosa M. Neto**  
Director, International Cooperation Directorate  
Ministry of Health (MINSA)  
Republic of Angola

Dear Dr Neto,

The Preparatory Study Team on the Project for Expansion of Technical School for Professional Health (ETPS) in Luanda would like to inform the views and findings of the field survey implemented from August 22<sup>nd</sup> to September 7<sup>th</sup> 2006, as follows.

1. The institutional establishment of ETPS-Luanda is under process by the Angolan Government.
2. The major requested facilities have already been renovated by the Angolan side since the official request was made.
3. The most of the official requested equipment has also already been arranged by the Angolan side since the official request was made.
4. The attached facilities and equipment list shows the priority from the viewpoint of the team on the request.

In this regard, the final conclusion whether the Basic Design Study will be conducted or not as the next procedure will depend on further analysis in Japan, which will be informed accordingly.

Finally, the mission would like to express the gratitude, where necessary information to achieve the purpose of our study was obtained through your strong assistance. Thank you again for the excellent arrangements to facilitate our Preparatory study.

Sincerely yours,

Shumon Yoshiara  
Leader, Preparatory Study Team  
Japan International Cooperation Agency(JICA)

cc: Mr. Florencio de Almeida, Director of Bilateral Cooperation, MIREX  
Dr. Evelize Fresta, National Director of Human Resources, MINSA  
Dr. Basilio Cassoma, National Director of Planning, MINSA  
Dr. Lino Siili, Director General, IMS/ETPS-Luanda  
Mr. Mitsuo Takahashi, Third Secretary, Embassy of Japan in Angola  
Mr. Norio Shimomura, Resident Representative, JICA South Africa Office

Annex 1 : Requested facilities list  
Annex 2 : Requested equipment list

**Requested Facilities list**

	Requested building	Priority
1	Main building <ul style="list-style-type: none"><li>• Class room</li><li>• Practical room</li><li>• Administrative office</li><li>• Library</li><li>• Canteen</li></ul>	The necessary spaces have been almost renovated by Angolan side.
2	Auditorium	Low
3	Dormitory	Low

## Requested Equipment List

A = 1st Priority, B = 2nd Priority, C = 3rd Priority  
 ★=The equipment which has already been prepared.

No.	Item	Qt.	Priority
<b>I. Audio Visual Aids Equipment</b>			
I-1	Video Cassette Recorder	2	C
I-2	Video Camera and Lighting	1	C
I-3	Screen	2	C
I-4	Radio Cassette Recorder	1	C
I-5	Cassette Audio Reproduction	1	C
I-6	Cassette Video Reproduction	1	C
I-7	Photo Camera	1	C
I-8	Slide Projector	2	C
I-9	Data board	1	C
I-10	Sound System	1	C
I-11	Overhead Projector	2	C
I-12	White Board	2	C
I-13	Flipchart Stand	4	C
I-14	Sound System Portable Wireless	1	C
I-15	Green Board	2	C
I-16	Television	1	C
I-17	CCTV	1	C
<b>II. Office Equipment</b>			
II-1	Photocopy Machine	1	★
II-2	Cutting / Binding Machine	1	★
<b>III. Special Training Equipment</b>			
III-1	Personal Computer and Printer	15	★
III-2	Scanner	1	★
III-3	Computer Projector	1	★
<b>IV. Auditorium Equipment</b>			
IV-1	desk & chair	200	C
<b>V. Classroom Equipment</b>			
V-1	desk & chair	165	C
V-2	White Board	4	C
V-3	Flipchart Stand	3	C
<b>VI. Dormitory Equipment</b>			
VI-1	Bed set	40	C
VI-2	Locker	20	C
VI-3	desk & chair set	41	C
VI-4	Television	1	C
VI-5	Table lamp	40	C
<b>VII. Dining Room Equipment</b>			
VII-30	desk & chair	84	C
<b>VIII. Kitchen Equipment</b>			
VIII-33	Heavy duty freezer(Refrigerator)	1	★
VIII-34	Gas and Kerosene stove	3	C
VIII-35	Rice Cooker	2	C
VIII-36	Cooking Set	1	C
<b>IX. Library Room Equipment</b>			
IX-39	Reading Desk & Chair	5	★

## Requested Equipment List

A = 1st Priority, B = 2nd Priority, C = 3rd Priority

★=The equipment which has already been prepared.

No.	Item	Qt.	Priority
IX-40	Desk & Chair	2	★
IX-41	Cabinet & Rack	13	★
IX-42	Photocopy Machine	1	C
X-1	<b>Radiology device BRS(Basic radiology system)</b>	1	B
X-2	<b>Chassis with window and screens, in the following size and quantities 35*43-2; 24*30-3; 18*24-3</b>	1	B
X-3	<b>A colum to support a rotative arm, allowing for vertical, horizontal and oblique diagnosis</b>	1	B
X-4	<b>A cassette holder with preset centralization of cassettes</b>	1	B
X-5	<b>Film revelation vats, totally in inox steel</b>	1	B
X-6	<b>Film identifier</b>	1	B
X-7	<b>Dark room lamp</b>	1	B
X-8	<b>Ambu for neonates and adults, for emergency ventilation and resuscitation</b>	1	B
X-9	<b>Flou meter / Humidifire</b>	1	B
	<b>Human body models</b>		
X-10	<b>Articulated skelton, complete and flexible</b>	1	B
X-11	<b>Disarticulated skelton, dismountable</b>	1	★
X-12	<b>Human skull with neurovascular system</b>	1	★
X-13	<b>Nervos system of whole body</b>	1	B
X-14	<b>Urinary system</b>	1	B
X-15	<b>Human cerebrum</b>	1	★
X-16	<b>Foetal development</b>	1	B
X-17	<b>Muscular system of whole body</b>	1	★
X-18	<b>Heart with diaphragm and lungs</b>	1	★
X-19	<b>Lymphafic system</b>	1	B
X-20	<b>Circulatory system</b>	1	B
X-21	<b>Dental system</b>	1	★
X-22	<b>Digestive system</b>	1	★
X-23	<b>Respiratory system</b>	1	★
X-24	<b>Male reproduction system</b>	1	B
X-25	<b>Female reproduction system</b>	1	B
X-26	<b>Model for C.P.R</b>	1	A
X-27	<b>Model for Incubation training</b>	1	C
X-28	<b>Hospital bed, with mattrés</b>	1	★
X-29	<b>Physician office scale: all metal, double beam:scale reading 0-150Kg</b>	1	★
X-30	<b>Auto clave: designed to sterilize all typs of hospital and laboratory materials</b>	1	A
X-31	<b>Centrifugation machine for microhematocrit</b>	1	★
X-32	<b>Centrifugation machine for: capacity for 24tubes</b>	1	★
X-33	<b>Tube shaker</b>	1	★
X-34	<b>Bain Marie</b>	1	★
X-35	<b>Bidistillator: capacity for 5litter per hour</b>	1	★
X-36	<b>Binocular microscope</b>	1	★
X-37	<b>Spectrophotometer: wave length from 320 to 920nm</b>	1	★
X-38	<b>Hematology counter</b>	1	A
X-39	<b>Refrigerator for maintenance of drugs</b>	1	★

## 2. 協議議事録

日時	2006年8月22日 16:00～17:30
場所	保健省人材局会議室
出席者	Dr. Augustino Rosa Neto(国際協力局局長)、Dra Constantina Furtado(人材局人材養成部部長)、 Dra. Enriqueta de Tavares(ETPS/L 副校長)、Mr. Andre Jamba(企画局投資部部長) 赤木 (保健医療/教育計画)、池田 (施設・設備計画)、五代儀 (機材計画) 亀山 (通訳)

### 1) 調査の目的の説明 (インセプション概略)

### 2) 団員紹介

### 3) 調査日程の依頼と確認

29日-30日のルバンゴへの移動は現地側が祭りのために変更する。ルバンゴの局長に確認するが、仮として30日-31日を検討する。

### 4) 質問書の提出と回答依頼 (8月31日までに回答)

### 5) 要請書の確認

アンゴラ側が作成した要請書は2001年と2005年の2本とのこと。本予備調査は2005年6月にアンゴラ政府から出された要請書に基づくこと説明する。

### 6) ルバンゴ医療専門学校について

世銀はその他のセクターも含め、ルバンゴ州への支援の中で医療専門学校を計画した。現在医療従事者の教育システムを改定している途中であるが、ルバンゴ医療専門学校はパイロット案件として進めている。この学校の横には実習先としてヘルスセンターが併設されている。報告書は現地で入手する。

日時	2006年8月23日 09:00～15:30
場所	ETPS/L
出席者	Dra Constantina Furtado(人材局人材養成部部長)、Dra. Enriqueta de Tavares(ETPS/L 副校長)、 Mr. Miguel Guedes (企画局) 赤木 (保健医療/教育計画)、池田 (施設・設備計画)、五代儀 (機材計画) 亀山 (通訳)

### 1) 要請書について

要請書は保健省側が主導で作成されたものであり、学校側では要請の詳細を把握していない。

### 2) 医療専門学校について

医療従事者のレベル向上を目指し、国家計画の中で医療専門学校の整備が策定された。現在教育システムも見直しを図っている最中であるが、全国に30程度ある学校の中で、初級、中級が混在している5州においてはこれらを統合し、州単位で教育を推進することとなった。

### 3) ルアンダ医療専門学校の優先度について

5つの医療専門学校整備計画の中でルアンダ医療専門学校は最優先の1つである。世銀はルバンゴ州に対する支援の中でルバンゴ医療専門学校を採択した。

ルアンダ州は人口が集中しており、患者数と共に医療施設の数も多い。

### 4) ルアンダ医療専門学校の開設コース

#### a) 医療技術コース

ポルトガルの提案により9つのコース開設を行うこととしているが、現状においては既存施

設の一部改修を行い、7つのコースが開校されている。ポルトガルは新入生に対するコースを支援している。

開設コース：臨床検査技師、病理解剖技師、心肺技師、薬剤師、理学療法士、栄養師、放射線技師

未開設コース：整形技師、環境衛生師

b) 看護コース

看護師の職務格付け表について

昔は8年卒2年勉強→一般技師の補助員になれる。

8年卒4年勉強→中級一般技師になる。

現状では12年卒1.5年勉強→中級一般技師になる。

12年卒4.0年勉強（大学）→上級一般技師になる。

c) プロモーションコース

EU支援で以下のプロモーションコースを実施している。

臨床検査技師、口腔外科、薬剤、フィジオセラピー、整形技師、放射線技師、看護補助員

5) ポルトガルの支援について

ルアンダ医療専門学校はポルトガルのリスボン Health Technology 大学との技術協力により、教師の派遣と受け入れを行っている。4年間のプロジェクトとして2003年4月に提携。ポルトガル側から5回のミッション派遣がなされた。アンゴラからも3回の教員研修をポルトガル側へ派遣している。プロジェクトは、現状調査、カリキュラムの策定、評価、課題の抽出。プロジェクトにおいては2004年に開校する予定であったが、2006年に開校した（非公式）。

ポルトガルの支援は新入生に対する医療技術コースについてのみである（現職への教育内容は含まない）。

地方において研修コースは教師の確保が難しいこと、実習医療機関も無いことからルアンダ医療専門学校でしか行えない。

6) その他の医療専門学校

ルバンゴ以外の3学校についても動きがある。

ウアンボ：EUによりF/Sが終了し、支援先を探すことになる。

マランジェ：母子保健プロジェクトの一環としてスウェーデンによる看護コースの支援が行われており、スウェーデンとアンゴラ政府により学校の一階部分を改修している。

カビンダ：現状では予定が無い。

7) 構内視察

\*EUは身体障害者の支援の一環で理学療法と整形技師コースを支援している。3階の4教室の改修を実施。

\*3階のトイレは保健省予算で改修。看護とヘルステクノロジーの事務所は学校予算。

\*1階の理学療法の機材の半分はEU、機材の残りとは改修工事は学校予算で実施。

\*人体解剖室

骸骨はリスボン大学からの援助。改修工事、人体モデル、チャートと家具は保健省予算で購入。

\*看護教務の改修は学校予算で改修。

\*看護実習室は来月リハビリを行う。学校予算。

\*検査ラボ

保健省が機材を2004年に先行して2室分を購入。試薬は消費期限が切れている。検査実習室として1室は施設整備が完了しているが、もう1室は今後改修予定。

\*厨房

入札で民間業者により経営委託。機材、部屋の改修も業者が行う。収益の中で運営する。

日時	2006年8月24日 15:00~16:30
場所	UNFPA ルアンダ事務所
出席者	Dr. Julio Leite da Costa(次長)、Mr. Jose Ribeiro(人口および開発方針担当員)、Mr. Paulo Muzuza(青少年リプロダクティブヘルス/HIV:コンサルタント)、Mss. Gisele Guimaraes(産科合併症ニーズアセスメント:コンサルタント)、Mss. Gabriela Simas(ジェンダー・リプロダクティブヘルス:コンサルタント) 赤木(保健医療/教育計画) 亀山(通訳)

1) 活動状況の確認

\*アンゴラでは現在フェーズ5のプログラムに入っている(2005~2008)。フェーズ4は1997~2004に実施されている。

\*活動は主に①人口開発調査、②ジェンダー、③青少年のアドボカシーを行っている。フェーズ4を継続したフェーズ5では①と②の総括を行っている。

\*リプロダクティブヘルス国家計画においてサポートを行っている。この計画は3つの大きな目的がある。

①ルワンダ、ベンゲラ、ウィラ州の32郡における医療サービスの質を高めて、アクセスを改善すること。

②青少年のリプロダクティブヘルスに関する情報の提供。

③青少年、一般、妊婦を対象とした保健、健康に対する意識向上。

これらの目的を達成するための手法として、キャパシティービルディングが重要であり、特にリプロダクティブヘルス関係者の人材育成に力を入れることとしている。保健省の担当部署は公衆衛生局である。

\*過去において施設改修も行っていたが、現状では施設は保健省、UNFPAが機材供与を行うという分担ができています。機材供与については、医薬品、ピルを含む避妊具も含まれている。

2) 人材育成について

\*保健省において現在働いている職員と医療専門学校の教師、学生に対するマニュアルとカリキュラムが策定されている。過去においては、現職員に対する教育をメインとしていた。現職に対するトレーニングには①現場職員のブラッシュアップ、②教師の再教育がある。

\*内戦により医療施設が破壊され医療施設が少ないため、新卒に配置先が無かった。以前は政府管理下のエリアしか配置していなかったが、現在は反政府軍のエリアも含めて全土を保健省が管理している。医療施設も建設されており、配置先も徐々にではあるが確保されてきた。

\*アンゴラでは過去には政府系の人材育成機関を卒業すると、政府の機関でしか就職することが出来なかったが、現在は民間も含めて就職することが可能となっている。

3) 活動予算について

\*プログラムの予算としては、総額1550万ドルであり、その内840万ドルは実施済みである。



#### 4) 保健省について

UNFPA は保健省が抱える問題点として以下を認識している。

①看護師を含むコメディカルの問題（質と量）、②運営の問題（施設運営が行えない。雇用したくても資金が無い。技術面で力が無いことから、運営アドバイザーを活用しなくてはならない）。

#### 5) その他

UNFPA の資料を入手する。

日時	2006年8月25日 09:30~10:50
場所	USAID ルアンダ事務所
出席者	Mr. Alonzo Wind(一般開発室部長) Dr. Angus Spirers(マラリア計画専門家) 赤木 (保健医療/教育計画)

#### 1) 活動の現状確認

\*数週間以内に保健省と本年度のアンゴラ国に対する資機材調達、運営、情報管理、品質等に関わる入札システム策定の支援契約を締結する。

\*昨年実施した医療システムに関するサポートについて評価を行い、新たなプロジェクトを立ち上げる。

\*母子保健については、南部3州の立ち遅れがあり、この地域に対する診断機能の改善対策を実施する予定。

#### 2) その他

\*アンゴラ国においてはドナー調整がうまくいっていない。

\*USAID の最新レポートを入手する。

日時	2006年8月25日 11:30~14:00
場所	保健省人材局
出席者	Dra Constantina Furtado(人材局人材養成部部長) 赤木 (保健医療/教育計画)、池田 (施設・設備計画)、五代儀 (機材計画) 亀山 (通訳)

#### 1) 質問書に対する確認

#### 2) 工程の確認

日時	2006年8月26日 09:00~12:00
場所	イリヤ ヘルスセンター
出席者	赤木 (保健医療/教育計画)、池田 (施設・設備計画)、五代儀 (機材計画) 亀山 (通訳)

#### 1) 現場視察

保健省との連絡が付いていなかったため、外観のみの視察。

日時	2006年8月28日 08:20~12:00
場所	保健省人材局
出席者	Dra Constantina Furtado(人材局人材養成部部長) 赤木 (保健医療/教育計画)、池田 (施設・設備計画)、五代儀 (機材計画) 亀山 (通訳)

- 1) ルバング調査日程の確認
- 2) ルアンダ地域の調査施設の確認
  - \*サンバ地区のヘルスセンター
  - \*キランバ キアシュ病院 (過去は母子保健センターであったが現在は郡病院)
  - \*ディビナ郡病院 (民間：教会により運営)

日時	2006年8月29日 08:30~11:00
場所	ディビナ郡病院、ノサセニョーラダパースヘルスポスト
出席者	Dra Constantina Furtado(人材局人材養成部部長)、Dr. Manuel Antonio Dala(院長)、Dr. Jacob A. Tonon(事務局長)、Mr. Andre Francisco Songue(人材部長)、Miss Nzunba Tandu(看護師長) 赤木 (保健医療/教育計画)、池田 (施設・設備計画)、五代儀 (機材計画) 亀山 (通訳)

## 1) ディビナ郡病院

### ①活動概要

- \*カトリック教会が所有しており、運営もここが行っている。医療従事者は保健省所属の職員を採用している。
- \*保健省のカテゴリーは郡レベルの1次医療であるが、現状においては2次レベルの医療機関となっている。同地域には4つのヘルスセンターがあり、これらの地域から患者の紹介がある。
- \*職員数は全部で294名(医師13名+イタリアからのボランティア専門医3名、看護師115名、検査技師25名、薬剤師14名、放射線技師3名、事務職員33名、他87名)。看護師のほとんどが中級レベルであり、3名が大学卒である。
- \*病床数は100床(小児50、内科27、結核23)
- \*外科、産婦人科、救急は扱っていない。外科診療が必要な場合は上位医療機関へ紹介する(小児はルアンダ小児病院、成人はジョシナ・マシエル病院)。
- \*N eto 大学看護学部の実習先でもある。
- \*一般外来時間は07:30-16:30
- \*診療費は自己負担分あり。ヘルスセンターは無料である。
- \*病院支出の30%は患者収入で補っている。民間の運営ではあるが、保健省から補助金(人件費)を得ている。

### ②医療従事者について

- \*上級レベルの人材が少ない。専門医が不足している。看護師は中級が多く、専門性が低い。検査技師については生化学担当が不在である。HIV患者のメンタルケアも行っているが、精神科医はいない。ヘルスセンターでは妊産婦検診の看護師が必要である。
- \*保健省の給与水準が低いので、給食サービスを職員に提供している。
- \*職員採用については病院が必要な場合、州政府を通じて保健省に依頼する。毎年15-20名の申請をしている。70%程度が看護師であるが、保健省の人事異動で空席になった部分を補っている。
- \*医療専門学校を卒業したばかりの職員は技術が伴わず、育てるのに時間が必要である。また、2003-2004年に平和協定が結ばれたことにより、反政府側の人員も採用することとなったが(100名採用している)、技術力が劣っている。

## 2) ノサセニョーラダパースヘルスポスト

- \*自家発電設備有り。ほとんど終日稼働。

\*職員は15名（看護師：内科/小児科4名、予防1名、妊産婦検診2名。検査技師2名、セキュリティー3名、清掃1名、他2名が出向中）。過去には医師も常駐していたが、現在は看護師のみで対応している。看護師が診断して処方を出すケースもある。

\*主な業務は、ワクチン接種、妊産婦検診、予備診断（病院への紹介が必要か否か）。検査室ではマalaria、白血球、妊娠診断、血液型、貧血等の検査を行う。検査技師は2名。

\*外来患者は成人70-80名/日、ワクチン予防接種50名/日、妊産婦検診40名/日。雨季には50%程度増加。診療圏人口は約5万人。

日時	2006年8月29日 11:30~13:00
場所	キランバキアシュ郡病院
出席者	Dr. Antonio N' zuzi (院長) 赤木 (保健医療/教育計画)、池田 (施設・設備計画)、五代儀 (機材計画) 亀山 (通訳)

## 1) 病院概要

\*診療科：内科、小児、産婦人科、新生児科、口腔外科、臨床検査部、薬局、放射線（開院時は母子専門であった）。産科は手術（帝王切開）も行う。

\*分娩は平均40分/日。上半期1-6月で6,444分娩（内500件が帝王切開）。

\*DOTS、HIVの母子感染ケア、感染症ケアも行っている。

\*病床数：100床

\*職員：642名（医師28名、看護師340名以上、検査技師30-40名、薬剤師20名、放射線技師20名。コメディカルは初級レベルが多い。専門の職員が必要。職員数のバランスが悪い。

\*Neto 大学看護学部から研修を受け入れている。年間で30名程度。

\*診療時間：08:00-15:30、3シフトで対応。

\*自家発電はあるが、容量が小さい。

\*診療費は一般外来では徴収するが、高額なものを要求はしていない。救急患者は基本的に診療費を徴収しない。

\*救急患者は200人/日程度。

\*医療廃棄物は州政府が契約して民間業者が回収している。

## 2) 問題点

\*病院スペースが小さい。病床数も足りない。小児科では満床の時に3人で1床を使用するケースもある。

\*機材の不足も目立つ（特に手術室と救急部）。また、メンテナンスにも問題が多く、対応が必要。

日時	2006年8月30日 15:30~18:00
場所	ルバンゴ医療専門学校、
出席者	Dr. David Domingos Luis (院長)、Dra Constantina Furtado (人材局人材養成部部長) 赤木 (保健医療/教育計画)、池田 (施設・設備計画)、五代儀 (機材計画) 亀山 (通訳)

## 1) 学校概要について

\*1990年頃から計画が策定され、世銀に申請し、1997年から工事開始。1999年開校。

\*保健省と教育省の認可を受けた医療専門学校（ETPS）で、4州をカバーする。

- \*学校規模は200名であり、当初400名規模の計画であったが、入札の結果、資金不足で2階建てが1階建てに変更となった。また、学生寮、運動場、等が削除された。
- \*本学校にはヘルスセンター（実習先）、メンテナンスセンターが併設されている。
- \*入札は建設と機材に分けて実施。機材は当初計画どおりの内容で調達が行われた。
- \*現状の学生数は139名。
- \*学生寮が無いことから地方の生徒は住宅手当を政府から補助してもらっている。
- \*世銀のプロジェクトでは他に中央病院、小児病院、産科病院、2箇所のヘルスポストの改修を行っている。
- \*教師は不足している。州政府に申請中。
- \*卒業生の就職先は4州の中であるが、過去の卒業生は全員就職している。就職先は学校と州政府が面倒を見る。
- \*メンテナンスは電気技師、配管工がそれぞれ1名いるが、能力不足もあり、ブラジルのフィオクルー財団に技術協力を依頼している。現状では学校施設の維持管理は中央病院の維持管理部門が対応している。
- \*スウェーデンが助産師コースの技術支援を行っているが、そのプロジェクトの中でヘルスセンターのランドリー、母子学級、滅菌室の建設を行った。
- \*EU と WHO の支援により、一次医療施設運営コース、郡保健担当員育成コースを学校で行った。

## 2) 校内視察

- \*一般教室：3室、講堂、実習室、解剖室、検査、食堂

## 3) ヘルスセンター視察（学校に隣接）

- \*検査室、放射線室（単純撮影）、分娩室

日時	2006年8月31日 08:00~09:00
場所	Tchioco ヘルスセンター
出席者	Dra Constantina Furtado(人材局人材養成部部長) 赤木（保健医療／教育計画）、池田（施設・設備計画）、五代儀（機材計画） 亀山（通訳）

## 1) 施設概要

- \*ルアンダ医療専門学校の建設プロジェクトと同時に世銀の資金により一般住居を改造した。学校の実習先でもある。
- \*妊産婦検診、家族計画、成人・小児診療、予防接種を行っている。分娩は行っていない。
- \*職員は20名（看護師7名、他13名）。郡の保健局が管理している。
- \*24時間対応、4シフト制。
- \*電力事情は悪く、毎日ではないが7-14時に渡り停電がある。医薬品のために冷媒を入れた保冷コンテナがある。
- \*外来患者は50-60人／日（予防接種を含まず）。
- \*井戸水を使用。

日時	2006年8月31日 16:00～17:00
場所	在アンゴラ日本大使館
出席者	高橋書記官 吉新(団長)、野田(技術参与)、泉田(計画管理1)、須賀(計画管理2)、赤木(保健医療/教育計画)、池田(施設・設備計画)、五代儀(機材計画) 亀山(通訳)

- 1) 調査概要の説明
- 2) 工程の確認

日時	2006年9月2日 09:30～11:00
場所	ルアンダ州病院
出席者	Dr. Ambrosio Capapinha(院長) 吉新(団長)、野田(技術参与)、泉田(計画管理1)、須賀(計画管理2)、赤木(保健医療/教育計画)、池田(施設・設備計画)、五代儀(機材計画) 亀山(通訳)

### 1) 病院概要

- \*開設は2006年2月、運営開始は3月。中国の借款にて建設。建築工期は1.5年。
- \*現状では外来、救急のみを行っている。入院サービスは検討中。
- \*州のレファラル病院として州政府の管轄。
- \*診療科：内科、産婦人科、小児科、外科、整形外科、眼科、循環器、耳鼻咽喉科、神経科、内分泌科、皮膚科、口腔外科
- \*病床は130床(内科、産婦人科、小児科)、将来の増床も可能な設計。
- \*医師は22名、看護師70名。当初は400名を想定しており、保健省に追加人員の申請中。専門職が少なく、中級以上の人員を増員したい。
- \*母子専門病院として建設されたが、他部門も含むこととなった。
- \*ルアンダではレファラル機能が良くない。この病院はパイロットとして、紹介システムを徹底している。

日時	2006年9月4日 09:30～12:00
場所	イーリャヘルスセンター
出席者	Dra. Tereza Matias(センター長)、Mr. Antonio Manuel(事務局長) 吉新(団長)、野田(技術参与)、泉田(計画管理1)、須賀(計画管理2)、赤木(保健医療/教育計画)、池田(施設・設備計画)、五代儀(機材計画) 亀山(通訳)

### 1) 施設概要

- \*N eto 大学看護学部および医学部の内科医の実習先でもある。看護師の研修は15-20名、3週間～1ヶ月程度。実習生の指導は主に看護師が行う。評価は医師が担当。医療専門学校からの学生は受け入れていない。
- \*地域のレファラルセンターと位置づけられる。地域人口は8万3000人程度、ヘルスポストは無い。
- \*過去に日本の無償資金協力で受け取った機材がある。
- \*職員は101名(助産師8名、初級看護師29名、中級看護師19名、放射線・検査・薬剤20名、事務10名、その他13名、医師は2名)。検査技師は初級が7名、中級が3名。放射線技師は初級が1名、中級が5名。薬剤師は初級が4名。現在3名がETPS/Lでプロモーションコース

を受講中。

\*シフトは2 交替 (8:00-17:00、17:00-8:00)

\*患者数は雨季で50-150 人/日、乾季で20-70 人/日。医師が診療を行うのは15-25 人/日であり、必要な時のみ対応する。

\*入院施設は無いが、病床を設置する計画がある。

\*レファラル先は妊婦はガンゲーラ産科病院へ、小児患者はルアンダ小児病院へ、成人患者はジョシナマシエル病院となる。紹介件数は2-5 人/日程度。救急車は無いので家族が搬送する。

日時	2006年9月4日 12:45~15:00
場所	ジョシナマシエル病院
出席者	Dr. Kimfumu Antonio (院長) 吉新 (団長)、野田 (技術参与)、泉田 (計画管理1)、須賀 (計画管理2)、赤木 (保健医療/教育計画)、池田 (施設・設備計画)、五代儀 (機材計画) 亀山 (通訳)

#### 1) 活動状況について

\*2ヶ月前からレファラルを徹底して、患者数が減った。

\*看護師の55%が初級、35%が中級、10%が大学卒である。

#### 2) 院内視察

日時	2006年9月4日 15:30~16:40
場所	EUルアンダ事務所
出席者	Mr. Mauro Di Veroli / 社会インフラ開発セクターインフラ専門家 Dr. Rau Feio / 保健分野専門家 赤木 (保健医療/教育計画)

#### 1) 活動状況について

\*EUとしてはアンゴラ国に対して、ソフト分野でのサポートを行っている。医療従事者の教育については、当初、中級と専門職をターゲットに計画が策定されていたが、現場の状況を踏まえてプロモーションコースが追加された。

#### 2) ウアンボ医療専門学校について

\*ウアンボで行われたF/Sレポートはまだ報告書が上がってきていない。

#### 3) 地方分権について

\*アンゴラでは地方分権が進んでおり、学校整備についても州政府との協議が必要となる。

#### 4) 民間の医療機関

\*民間業者による医療活動もあり、公的機関のサービス活動と競合する。保健省所属の医療従事者も民間の施設で働いている。

#### 5) 医療施設の課題

新しい医療施設が開設されると、必ず運営面での問題に直面する (管理能力の欠如、医療サービス内容の問題)

日時	2006年9月5日 09:00~12:00
場所	保健省
出席者	Dr. Augustino Rosa Neto(国際協力局局長)、Dra Constantina Furtado(人材局人材養成部部長) 吉新(団長)、野田(技術参与)、泉田(計画管理1)、須賀(計画管理2)、赤木(保健医療/教育計画)、池田(施設・設備計画)、五代儀(機材計画) 亀山(通訳)

1) 調査概要の説明

日時	2006年9月6日 09:00~12:00
場所	保健省
出席者	Dr. Augustino Rosa Neto(国際協力局局長)、Dra Constantina Furtado(人材局人材養成部部長) 吉新(団長)、野田(技術参与)、泉田(計画管理1)、須賀(計画管理2)、赤木(保健医療/教育計画)、池田(施設・設備計画)、五代儀(機材計画) 亀山(通訳)

1) 協議議事録について

\*日本側書面の内容について協議。